

うし く ぼ けん いち
丑久保健一さんのボール
との出会い

茂木中学校
2015年3月12日

彫刻家：丑久保健一



※著作権に配慮し、以下の画像は粗く処理しています。

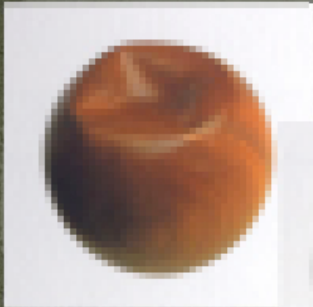
木のボール

- 丑久保さんの代表的な仕事に、木のボールがある。アトリエで実際にボールを見ながら彫ったのだろうが、空気を抜いただけで起こる簡単な変化なのに、同じものが二つとないところが面白い。材質も櫟（かし）、檜（ひのき）、朴（ほお）と試して、最終的に櫟（けやき）に落ち着いた。

ボールを彫り続けていた。。。

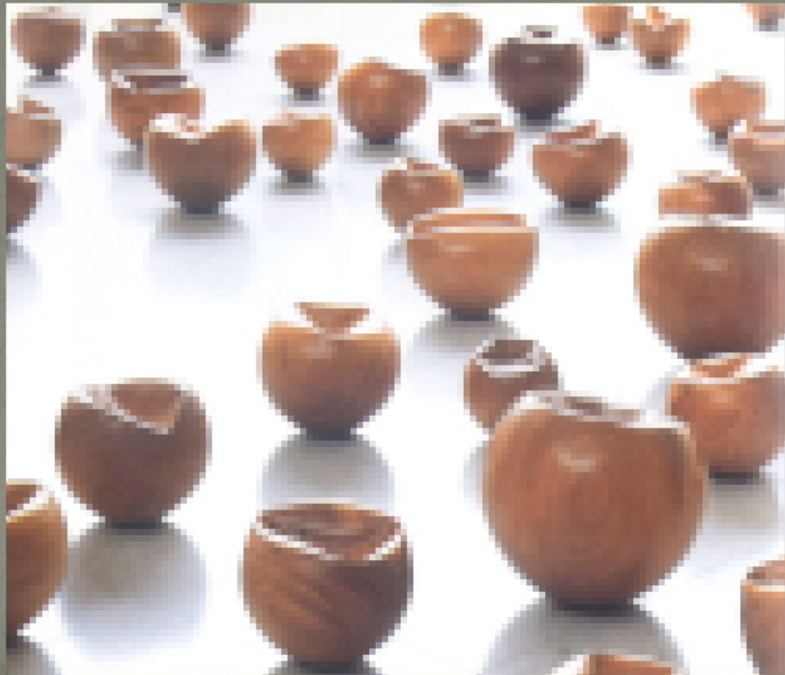


炭化したボール



朽ちていくボール

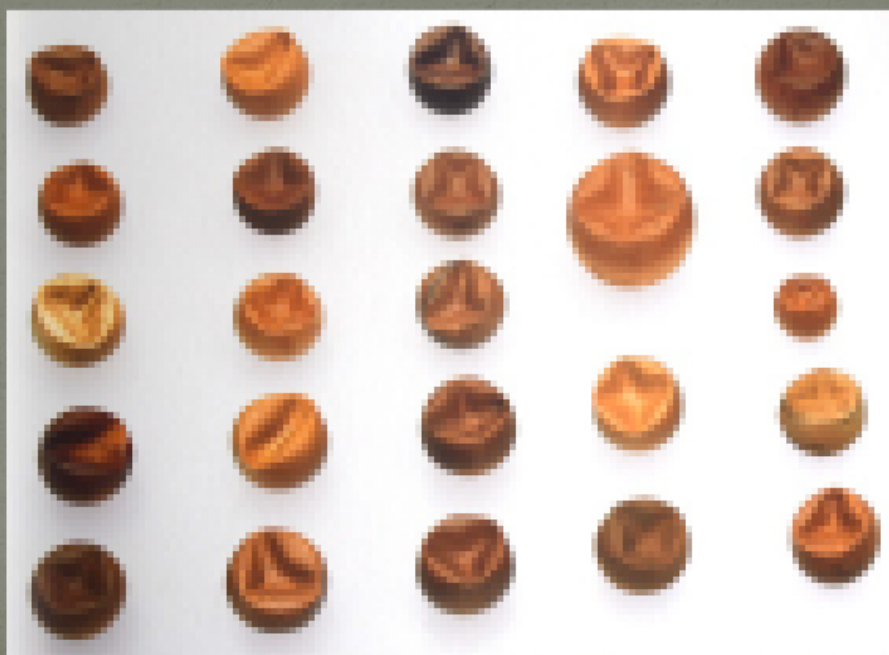
1・0・∞のボールは、この世の全体を表す。



丑久保さんの遠い記憶に

- 「うちの実家の前が、学校の運動場だったんです。ある時、その真ん中に凹んだバレーボールが投げ捨てられていた。……底がピーンと張っているながら、上の方は緩やかになっている。一つのモノのなかに緊張と緩和が同居するみたいな形で……。それが運動場の広い空間にポツンと置かれていて、……。広大な空間とボールの関係に心をひかれた。」

いろんな凹みがある！



船に乗って、何をしようとしていたか??



丑久保さんの夢

- ボールによって地球全体を彼の彫刻作品とすることだ！



そして、
海にもボールを
置きたい！



ボール108個は、
太平洋の黒潮本流
に置かれた。
黒潮に乗って、
ボールは太平洋を
巡っていく！！





出典：『丑久保健一展』2004年
宇都宮美術館カタログ